

適正配置に関する検討経過・内容

平成21年8月

国見町小学校適正配置検討委員会

1 はじめに

国見町小学校適正配置検討委員会（以下検討委員会）は、平成20年10月24日に町教育委員会より

（1）適正配置のあり方について

「子どもの教育環境」「学校運営と指導体制」等の観点から「学校の適正規模」「適正配置」はどうあればよいか

（2）学校適正配置の進め方について

「学校適正配置のあり方」を踏まえ、その実現を図るために、どう進めていけばよいか

の2点に関し諮問を受け、6回の審議を行ってきた。

町内の小学校全てにおいて児童数の減少が進み、既に大木戸小学校、小坂小学校、大枝小学校では複式学級編制が行われているし、森江野小学校でも平成26年度から実施を余儀なくされている状況である。今後もこの傾向は続き、完全複式学級編制となる学校も見込まれる。

小規模校には、児童一人ひとりの個性に応じたきめ細かな指導が行き届き、教育効果が得られるなどの長所がある一方で、子ども同士のよい意味での競争心の低下や学級内での人間関係の固定化などが懸念される。また、教科においても一定数の集団を必要とする音楽・体育などで十分な教育効果が得られにくいことが心配される。さらに、小規模化に伴い教職員の配置にも問題が出てきているところである。

検討委員会は、小規模校で努力され、行われている教育の成果を認めながら、より教育効果を高めるという視点に立って、教育活動上、生徒指導上、学校運営上などから、町の小学校のあり方、適正規模について検討を行った。

その結果、国見町における小学校の適正規模は特別支援学級を除き、12学級から18学級を基本とすることにした。

この適正規模に当てはめると、国見町の5小学校のうち4小学校が適正規模に満たず、いわゆる小規模校になっている。このことから、「国見町の小学校は、これら小規模校を統合し、適正規模の学校1校にするのがよい」との結論に至ったところである。

次に、適正規模化をどのように進めていけば良いのかについて検討を行った。既に複式学級が出ている学校があり、これらの学校の児童のことを思えば統合は急がれる。このことから、検討委員会は、統合目標年度を平成24年度とし、藤田小学校を活用して開校することを提言するものである。

しかしながら、地域によって置かれている教育的状況が異なり、さらには特別の事情を持つ地域もあることから、今後、適正配置に向けた取組みは、保護者・地域の理解を十分に得ながら、地域の実情に即して弾力的に進める

必要がある。

2 町の小学校の現状と課題

(1) 児童数の推移

- ① 平成26年度までの町内各小学校の学年別児童数の推移について

資料1 参照

- ② 市町村の将来人口から（日本統計協会）

国見町の年齢区分別人口予測

	2010年	2015年	2020年
0歳～14歳	1150人	1006人	889人
2010年との比較	0人	-144人	-261人

児童数は年々減少の傾向に有り、将来の推計においても減少に歯止めがかからず、さらに小規模化し複式学級がますます増えることが見込まれる。

(2) 校舎・体育館の状況

	校舎	体育館	プール	備考
小坂小学校	S 56	S 31	S 38	校舎 耐震補強必要なし
藤田 //	S 56	S 36	S 43	校舎 耐震補強済み
森江野 //	H 4	H 5	S 56	校舎・体育館 耐震構造
大木戸 //	S 53	S 31	S 38	校舎 22年度耐震補強予定
大枝 //	H 3	S 29	S 36	校舎 耐震構造

小坂小学校、藤田小学校、森江野小学校、大枝小学校の各校舎、森江野小学校の体育館は耐震構造であったり、耐震補強済みであったりなど学習環境に適している。

大木戸小学校の校舎も老朽化が進んでいるものの耐震補強を施す予定にあり、児童の学習環境として当面は安全・安心な施設といえる。

しかし、体育館は森江野小学校を除きいずれも木造建築等で、しかも築後50年を経過しているものもある。このことから、早急な改築等の対策が求められるところであるが、それぞれの改築については、財政面とその効果からして極めて消極的にならざるを得ない。

これらのことから、安全で安心できる教育環境の提供は、最優先で解決されなければならない課題ではあるが、学校の統合を含む適正配置を実施することで、これらの課題の解決を図ることがよいと考える。

(3) 保護者、地域の考え

これまで、町教育委員会では児童数の推移を基にアンケート調査や各地区での懇談会を進め、適正規模での教育を中心に多岐にわたる意見、要望

を聞いてきたところである。

これを受け検討委員会は、そのいずれも保護者・地域の皆さんのこれから国見町の小学校で学ぶ子ども達を思う切実な意見、要望であり、そうした気持ちを真摯に受け止めながら、子ども達に負担を強いる事のないように十分配慮しながら検討を行うこととした。

3 適正規模に関する考え

(1) 少人数での学習や生活のよい点、問題点

一般的には、時間をかけたきめ細かな指導ができ、子どもの発表の機会も多くなる。一方では、教師への依存度が強くなり、受身がちになりやすい。また、多様な意見を取り入れて自分の考えを深める学習ができにくいと言われている。

さらに、人間関係では互いに顔なじみで、まとまりやすいし、教員がすべての子どもとかかわることができる。しかし、クラス替えができず、同一集団で過ごすため、子ども達の関わり合いや競い合いの機会が制限され、社会性が育ちにくい。また、人間関係が固定化しやすく、いったんこじれると修復が難しい場合がある。

学校運営面でも、教師の意思疎通が図られやすいが、相談や切磋琢磨ができにくい場合があるし、バランスの取れた教職員の配置も難しくなる。

(2) 望ましい小学校のあり方

子ども達が活躍するこれからの社会は、グローバル化、国際化、競争社会化へと急激に変化していくものと考えられる。

学校は集団での学びの場であり、次代を担う児童が心豊かでたくましく育ち「生きる力」を育むためには、相応の児童数が必要である。

このことから、これからの学校には、集団として成立、機能し、人間関係の中で多くの個性と交わり学びあえる、適正な人数構成が求められる。

(3) 国見町の小学校における適正人数、適正規模

① 法令上から

学校教育法施行規則第41条においては「小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情がある時はこの限りではない」とされている

② 適正人数、適正規模

検討委員会としては、これまで検討してきた事柄を踏まえ、児童に対する教育的効果及び教員配置等の教育指導面の充実や学校管理運営面並びに現に活用されている学校施設・設備の有効活用などから総合的に判断して、小学校の適正規模を次のようにとらえた。

- 学級数は、12学級以上18学級以下とする。
- 1学級の児童数は、1・2年を30人とし、その他の学年は30人程度（33人）とする。
- 児童の総数は、おおよそ200人から590人となる。

4 適正配置のあり方

(1) 適正配置を進める上での基本理念

検討委員会は、新たな学校を作る上での基本理念を「適正規模の学校を作る」とし、今後具体的に検討を進めることとした。

(2) 具体的検討事項

検討委員会が小学校の適正配置を考える上で前提としたことは、次のとおりである。

- 今後の児童数の推移について
- 適正規模を確保することについて
- 通学距離について
- 活用する学校の状況について
- その他

なお、町の財政状況等に鑑み、統合を機に新たに小学校を建設することについては検討課題にしないこととした。

(3) 適正配置のあり方

町内の小学校5校について統合を考えた場合、現実的には、方法として5校を1校にする場合と2校にする場合が考えられる。この2つの場合について検討を行った。

① 5校を1校にする場合

- 学級編制状況 資料2 参照
24年度は18学級が予測され、その後も適正規模は確保されると思われる。
- 通学距離
文部科学省の基準では、小学校の通学距離はおおむね4km以内と示されている。大半がその範囲にあるとしても、遠距離通学の児童も出てくる。
このことから、今日的安全・安心な学校づくり、不審者対策あるいは登下校時の交通安全、そして児童の体力的な負担の問題等に十分に配慮し、スクールバス等の配置を考える必要がある。
- 活用する学校の状況
現在使われている校舎で、18学級の普通教室を持っている学校は

藤田小学校のみとなり、必然的に藤田小学校を活用することになる。

しかし、校舎が目一杯の状況になり、子ども達に窮屈な思いをさせるのではないか、さらに仮に児童数が増えたときに対応が可能なのかこれらを懸念する意見もあった。

確かに、18学級となると現在の普通教室だけでは不足することも考えられる。特別教室等を普通教室に替えるなど、対処する必要がある。

② 5校を2校にする場合

今学校で共に学んでいる子ども達の友人関係を十分に考慮し、さらに学校と地域の望ましい関係などから、今ある学校を分離してまで統合を進めることは考えないこととした。

○ 学級編制状況

資料2 参照

藤田小学校と小坂小学校、森江野小学校と大木戸小学校と大枝小学校を想定した場合は、資料2のようになる。

森江野小学校と大木戸小学校と大枝小学校を統合した場合は、今後適正規模を確保するのは極めて難しい状況にある。

○ 通学距離

通学距離については、1校案よりもよい条件にある。

○ 活用する校舎の状況

森江野小学校は校舎・体育館ともに新しく、望ましい教育環境である。さらに、2校ともゆとりがあってよい。

森江野小学校の活用は、教育環境が整っていることや複式学級編制が解消されるなど、統合の効果は期待されるが、適正規模の確保ができない上に、今後も小規模化は進むと考えられる。そうすると、森江野小学校と大木戸小学校と大枝小学校はまた統合問題を背負うことになる。このようなことから2校案は賛同を得られなかった。

③ 結論

以上のことから、検討委員会が諮問を受けた「1」については、適正規模を確保する方法として、5校を1校に統合するのが妥当という結論になった。

また、藤田小学校に他の小学校を吸収統合するというのではなく、現在の藤田小学校を活用し、「新たな小学校」を作るという町民総意のもと開校するのが望ましい。

5 適正配置の進め方

(1) 進めるに当たっての配慮事情

① 複式学級の早期解消

現在複式学級が出ている小学校については、早急に望ましい教育環境を提供する必要があることから、統合を急がねばならない。

② 安全・安心な教育環境

校舎については、耐震補強を施すことで安心・安全が確保できるが、体育館については、森江野小学校を除いていずれも老朽化が著しい。統合を急ぎ進めていく中で、併せて解決を図るのがよいと考える。

③ 大枝小学校

検討委員会としては、大枝小学校（国見分）の統合を進める上での配慮事項を次のように共通理解し、検討を行った。

○ 国見町と組合教育委員会と伊達市の3者が共通の目標と理念を持って進めるべき懸案であること。

○ どちらかが一方的に統合を進めることがあってはならないこと。

したがって、検討委員会としては、今後3者が連絡を密にしながら、大枝の子ども達に、望ましい教育環境をできるだけ早く提供できるように進めることを希望する。

(2) 目標年度

○ 適正配置の目標年度を平成24年度とする。

検討委員会としては、「新しい小学校」を開校するとの理念に基づき、町民の総意を持って、小坂小学校、藤田小学校、森江野小学校、大木戸小学校、大枝小学校（国見分）の5校を平成24年4月を目標に1つの学校に統合することを提言する。

小坂小学校、大木戸小学校については、児童数の減少が進み、今後複式学級が増えることが見込まれる上に、体育館の老朽化も進んでいる。これらの学校で学ぶ児童のことを考えれば、義務教育の公平性を確保する上からも、安全・安心を確保する上からも、適正配置を急ぐ必要がある。

また、これから教育委員会が進める適正配置計画の日程を考慮に入れた。

○ 大枝小学校については、組合立という特別の事情がある。その事情を考慮すると24年度を目標とするのは、極めて難しい状況にあることは否めない。各学校個別に最良の方法・時期を見つけ弾力的に進めるのが肝要と考える。

6 おわりに

学校の適正規模と適正配置はそれぞれが個別に達成されるものではなく、通学区域の変更や学校の統合などの手法を弾力的に組み合わせて達成されるものであると考える。

学校の適正規模に関しては、法令に関するものはあくまでも「標準」の規定であり明確な根拠は見つからないが、指導の現場の大方の認める考えである。

少子化の進展と社会構造の転換期を迎え、経済・社会状況の激しい変化の中で、教育や学校に対する考え方の変革を目の当たりにしながら、現在考えられる望ましい規模として設定した。言い換えるならば、教育制度改革のもと、学級編制の基準の改定など僅か数年で考え方を変えなければならない事態が生じることも否定できない。

また、各学校の存在は、今通学している子ども達と保護者のためだけにあるのではなく、その学校の長い歴史の中で教師、児童、保護者、地域住民等の学校にかかわってきたすべての人たちが、地域社会との深いつながりの中で作り上げてきたものであり、町づくりや防災上の拠点としての重要な機能も併せ持っている。

このため、教育上の観点から実施される学校の適正規模、適正配置については、保護者・地域の方々の意見を尊重しながら、学校・家庭・地域社会・行政が共通理解のもと、一体となって進めることが不可欠である。さらに、学校とそれに関わる事情について、個別に最良の方法を検討して、実行に移すことが大切である。

最後に、検討委員会はこの会議を非公開で進めてきた。教育問題、特に小学校の統廃合については様々な考えがあり、保護者・地域にとっては極めて重要なことで、関心も高いところである。このような状況下で各委員には、自分の考えを制約されることなく述べてもらうことが大切であると考えたからである。

また、中間での報告を控えたのは、答申に至るまでの過程を主体性、自立性を持って進めたいと考えたところである。

H21年度～H27年度児童生徒数推移表

資料1

2009/4/24現在

年度	21年度							22年度							23年度							24年度							25年度							26年度							27年度						
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計
学年																																																	
学校種別																																																	
小坂小	7	0	7	9	11	10	44	8	7	0	7	9	11	42	6	8	7	0	7	9	37	2	6	8	7	0	7	30	8	2	6	8	7	0	31	2	8	2	6	8	7	33	7	2	8	2	6	8	33
藤田小	55	57	41	59	63	54	329	59	55	57	41	59	63	334	47	59	55	57	41	59	318	50	47	59	55	57	41	309	40	50	47	59	55	57	308	45	40	50	47	59	55	296	33	45	40	50	47	59	274
森江野小	11	13	17	11	19	18	89	11	11	13	17	11	19	82	10	11	11	13	17	11	73	11	10	11	11	13	17	73	3	11	10	11	11	13	59	10	3	11	10	11	11	56	8	10	3	11	10	11	53
大木戸小	7	12	9	8	5	13	54	9	7	12	9	8	5	50	7	9	7	12	9	8	52	5	7	9	7	12	9	49	7	5	7	9	7	12	47	4	7	5	7	9	7	39	7	4	7	5	7	9	39
小学校計(大枝小除く)	80	82	74	87	98	95	516	87	80	82	74	87	98	508	70	87	80	82	74	87	480	68	70	87	80	82	74	461	58	68	70	87	80	82	445	61	58	68	70	87	80	424	55	61	58	68	70	87	399
大枝小(国見分のみ) ※()内全校分	5	2	4	4	8	2	25	2	5	2	4	4	8	25	6	2	5	2	4	4	23	6	6	2	5	2	4	25	5	6	6	2	5	2	26	3	5	6	6	2	5	27	5	3	5	6	6	2	27
	(11)	(7)	(9)	(9)	(13)	(8)	(57)	(5)	(11)	(7)	(9)	(13)	(54)	(6)	(5)	(11)	(7)	(9)	(9)	(47)	(9)	(6)	(5)	(11)	(7)	(9)	(47)	(7)	(9)	(6)	(5)	(11)	(7)	(45)	(5)	(7)	(9)	(6)	(5)	(11)	(43)	(5)	(7)	(9)	(6)	(5)	(11)	(32)	
小学校計(大枝小国見分含む)	85	84	78	91	106	97	541	89	85	84	78	91	106	533	76	89	85	84	78	91	503	74	76	89	85	84	78	486	63	74	76	89	85	84	471	64	63	74	76	89	85	451	60	64	63	74	76	89	426
県北中	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計													
	88	99	102	289	97	88	99	284	106	97	88	291	91	106	97	294	78	91	106	275	84	78	91	253	85	84	78	247																					
小・中計(大枝小除く)	830 (805)							817 (792)							794 (771)							780 (755)							746 (720)							704 (677)							673 (646)						
	4歳児			5歳児			計	4歳児			5歳児			計	4歳児			5歳児			計	4歳児			5歳児			計	4歳児			5歳児			計	4歳児			5歳児			計							
藤田幼	30			62			92	52			53			105	48			52			100	47			48			95	40			47			87	40			40										
森江野幼	0			16			16	22			23			45	15			22			37	17			15			32	20			17			37	20			20										
幼計	30			78			108	74			76			150	63			74			137	64			63			127	60			64			124	60			60										
総計(大枝小除く)	938 (913)							967 (942)							931 (908)							907 (882)							870 (844)							764 (737)							673 (646)						

小坂・藤田

森江野・大木戸・大枝

22年度以降は対象者数

資料 2

(学年の1は平成24年度の1年生、0は平成25年度の1年生、-1は平成26年度の1年生を意味する。3は、平成24年度の3年生、平成25年度の4年生、平成26年度の5年生となる。)

1 5校を統合して1校とした場合

(藤田・小坂・大木戸・森江野・大枝が統合した場合)

学 年	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
小 坂	7	2	8	2	6	8	7	0	7
藤 田	33	45	40	50	47	59	55	57	41
森江野	8	10	3	11	10	11	11	13	17
大木戸	7	4	7	5	7	9	7	12	9
大 枝	5	3	5	6	6	2	5	2	4
児童数	60	64	63	74	76	89	85	84	78
学級数	2	3	3	3	3	3	3	3	3
学級編 制	30	22	21	25	26	30	29	28	26
	30	21	21	25	25	30	28	28	26
		21	21	24	25	29	28	28	26
3年生 以降の 学級数		2	2						
		32	32						
		32	31						

児童総数	24年度	486人
	25年度	471人
	26年度	451人
	27年度	426人

2 5校を統合して2校とした場合

(1) 藤田・小坂を統合した場合

学 年	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
小坂小	7	2	8	2	6	8	7	0	7
藤田小	33	45	40	50	47	59	55	57	41
児童数	40	47	48	52	53	67	62	57	48
学級数	2	2	2	2	2	3	2	2	2
学級編 制	20	24	24	26	27	23	31	29	24
	20	23	24	26	26	22	31	28	24
						22			

児童総数 24年度 339人
 25年度 339人
 26年度 329人
 27年度 307人

(2) 森江野・大木戸・大枝を統合した場合

学 年	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
森江野小	8	10	3	11	10	11	11	13	17
大木戸小	7	4	7	5	7	9	7	12	9
大枝小	5	3	5	6	6	2	5	2	4
児童数	20	17	15	22	23	22	23	27	30
学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1

児童総数 24年度 147人
 25年度 132人
 26年度 122人
 27年度 119人